

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立池田高等学校

学校番号	20
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。		
2 評価する領域・分野	◇学校経営		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	池田高校は、揖斐郡を中心に約9割の生徒が通学1時間以内、10km圏内から通うまさに地域の高校である。穏和な生徒が多く、保護者も学校の教育活動に協力的である。池田町や地域の学校や教育機関との連携を深め、地域創生の核となる高等学校づくりに努めている。 生徒・保護者対象のアンケート（7月実施）では、本校職員の教育活動に対する熱心な取組への評価がとても高く、特に「健全な身体・豊かな心も含めた人間を育成している」や「一人一人の能力に応じた指導を行っている」項目の評価が高い。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇地域の中で存在感があり、地域に望まれる学校づくり		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	• 企画委員会、各種委員会及び職員会議		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 学びの挑戦 （授業改善、少人数指導、進路希望に合わせた多様な科目選択、キャリア教育等） (2) 部活動・学校行事・ボランティア活動の挑戦 (3) ユネスコスクール(ESD)への挑戦 「Global Welfare（地域・国際社会の中でよりよく生きる）」をキーワードに、「福祉」、「国際」、「環境」を3つの柱としてESD（持続可能な開発のための教育）を推進	(1) 生徒・保護者等を対象とするアンケート結果、進学や就職等の進路状況 (2) 生徒対象の生活アンケート（迷惑調査）結果、部活動の成績や学校行事での生徒の活動状況、地域行事への参加状況 (3) 学校評議員会、学校関係者評価委員会による評価、地域からの評価、ボランティア活動への参加状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 学びの挑戦 • 英数国における少人数習熟度別指導、生徒の興味関心や進路希望に応じた多様な選択科目の設定。 • 習熟度の高い生徒への放課後補習や土曜補習、成績不振者への補充指導等、生徒の実態に応じた学習支援。 • 職業別ガイダンス、学部・学科別ガイダンス、学校別ガイダンス、インターンシップ等のキャリア教育の充実。 (2) 部活動・学校行事・ボランティア活動の挑戦 • 生徒会の主体的な活動や、球技大会、文化祭、体育大会、版画大会等の学校行事の活性化。 • 外部講師による指導の充実、グラウンド防球ネット増設、備品の整備等部活動活性化のための環境整備。 (3) ユネスコスクール(ESD)への挑戦 • 地域のユネスコスクールや大垣ユネスコ協会との連携推進 • 池田町及び池田町教育委員会、保育園、小中学校、特別支援学校、福祉系専門学校や福祉施設と連携した福祉教育、国際教育、環境教育の推進。	① 一人一人の生徒の個に応じた指導と進路実現ができたか ② 所属意識を高め、生徒の主体的活動の実現ができたか。 ③ 地域と連携しながら池田高校の方向性を明確にし、行動することができたか。	A (B) C D A B C D A B C D	

<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、家庭クラブ、ボランティア会、MSリーダーズ、科学部等の生徒の活躍によるESDの推進。 		
<p>11 成 果 ・ 課 題</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本校は昨年度より3年間、県教育委員会から指定を受け「岐阜県立池田高等学校活性化協議会」を設立した。協議会を2回開催し、魅力ある活力あふれた高校づくりについて協議し、生徒の進路意識高揚や生徒募集のための様々な取組を行った。 ○ボランティア活動の充実、池田町が主催するニュージーランド海外研修、地域の保存会と共同でハリヨの保護活動を行なう等、地域と連携しながら、ユネスコスクールとして、具体的な教育活動を展開することができた。 ○生徒や保護者への一斉メール配信の活用や、活発な育友会活動を進めたので、本校の教育活動への理解が深まったという評価をいただくことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲「高校生としてのマナーや社会規範を身につけるための指導」項目への評価が前年度までに比べて増加していないので次年度には対策を進めたい。 	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>今年度は、中学3年生を対象にした学校PRパンフレットを作成し各中学校を訪問したり、先進的に魅力ある学校づくりを進めている広島県と岡山県の高校2校を職員が視察したり、地元の池田中学校3年生対象に本校職員が出前授業を行ったりして、魅力ある高等学校づくりのための具体的な活動を積極的に行った。</p> <p>また、働き方改革にも努め教育活動の見直しと改善を積極的に進めるとともに、生徒の卒業後の進路実現や部活動での活躍、生活指導の充実に努めることができた。</p> <p>来年度は、池田高等学校活性化協議会を中心として、魅力ある高等学校づくりのための具体的な活動をさらに進めたい。そのために、地元の専門学校との授業連携、地元中学校との連携などの学校間の繋がりを深めていきたい。また、地元行事に積極的参加し、池田町と協働してキャリア教育を進めるなど地元自治体と連携を深め、卒業後は地域の様々なところでリーダーとして地域を支える社会人として期待される人材を育成する学校として運営を進めたい。さらに、ICT教育を進め、教科指導を充実させ、意見交換しながら自ら課題を見つけ解決していくアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業改善を進めたい。</p> <p>また、生徒のスマートフォンの使用方法に関するマナーや知識を徹底させるための対策を進めたい。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月6日

【意見・要望・評価等】

- 地域との連携を視野に収め、努力している。
- 高校生になるとなかなか地域の人と触れ合う機会が少なくなる現代だと思われるが、池田高校の場合、地元の生徒が多いことや生徒が地域の行事や活動に積極的に参加してくれていることなどから地域の方々に温かく見守られ、連携しながら学校経営が行われていると思う。また、生徒同士の雰囲気も良く、生徒一人一人にきめ細やかな指導をしてくださっていると思う。(学習面だけでなく、精神的な面においても)そのおかげで、生徒が楽しい学校生活をおくれていると思う。
- 生徒や保護者を対象とするアンケートを行い評価も高く、学校と家庭が一体となって向上している。
- 地域とのコラボがうまく連携して池田町の方たちも高校生の存在を年ごとに感じているように思う。
- やはりユネスコスクールへの挑戦は、生徒たちにとって大きなステップになっている。
- 来年に向けての改善方策案も今後期待し応援していきたい。